

## 「研究公正性の確保のために今何をすべきか？」

日 時	12月3日(火) 10:00～11:30	研究主宰者や共同研究者が研究公正性に果たすべき役割
	12月3日(火) 14:00～15:30	研究機関が研究公正性に果たすべき役割
	12月4日(水) 10:00～11:30	研究不正を防ぐジャーナルシステム
	12月4日(水) 14:00～15:30	研究不正を防ぐ研究費配分システム
	12月5日(木) 10:00～11:30	不正調査の実際と有効性
	12月5日(木) 14:00～15:30	まとめ、今後の課題と次のアクション

※セッションの概要は、翌日の朝までに年会 HP にアップする予定です。

会 場：神戸ポートピアホテル 地下1階 トパーズ

近年、研究の発展を阻害するような研究不正が続発し、研究者に対する信頼性が大きく揺らいでいます。ライフサイエンスの研究成果が、医療技術や薬の開発などを通して社会と直結する現代において、研究の公正性を確保することは絶対的に必要です。研究不正を防ぐための何らかのルール・仕組みを、早急に作る必要がありますが、その任務を主導するべきは我々科学者であると考えます。なぜなら、我々は当事者であり、我々だけが、不正に関する種々の事情を正確に理解し、適切に対応できるからです。もし、我々がこの危機に対して何もしなければ、外部から新しいルールを押しつけられることは間違いなく、それが、不合理で研究の障害になったとしても、何一つ文句は言えません。このフォーラムでは、これまでの様にスローガンの結論を出すのではなく、過去の不正事例を検討し、どうすれば不正を減らすことができるかに関する具体的な提案につなげることを目的とします。また、それによって、この問題に対して科学者社会に、健全な自浄作用が保持されていることを一般社会に向けて表明したいと考えます。

### フォーラムの形式と内容

本フォーラムは、漠然とした一般論に陥ることなく、不正を減らせるような具体的な提案につなげるため、テーマを絞った6つの独立したセッションから構成されています。各セッションのテーマに適した人材を講演者、パネラーとして招聘し、基本的に講演以外は自由討論という形で議論を深めます。講演を含む、全発言は全文記録し、不適切発言などを削除した後、全面公開します。また、サイエンスライター（2名程度）に記録をお願いし、客観的な立場からまとめをお願いすることを計画しています。

なお、このフォーラムは糾弾のためにあるのではなく、あくまでも未来に向けての改善策を探る事が目的です。このことは、フォーラム参加者全員がしっかりと心にとめておいていただけるよう、お願いいたします。

重要な関係者に参加をいただくべく、様々な働きかけをしておりますが、内容の詳細につきましては年会 HP にアップデートしていきますので、そちらをご覧くださいませければ幸いです。

研究倫理委員長 小原 雄治  
理 事 長 大隅 典子